

せっかち 園長の ひといごと

2016、2、29

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

2月13日（土）に開催された キッズフェスティバルは、いかがでしたか？

3・4・5歳の子どもたちの1年間、あるいは在園した歳月全体の（0歳で入園したお子さんは6年間の）、

園生活の総まとめのような行事が、キッズフェスティバルです。子どもたちはそこで精一杯、「表現」していましたね。

そしてそこでは「表現」とともに、「自我の発見」「自己肯定感」「合意の形成」を育てていました。

自我の発見（3歳）⇔ それ以前の小さい頃は、自分と他者の区別もあいまい（だから友だちのおもちゃを奪ってしまう）。



しかし、親や先生、友だちから見られたり声をかけてもらうことで、相手（他者）の存在に気がつきつつ自分の存在（自我）にも気付く。これが、自我の発見。「ぼくは、ぼくなんだ!」という感じ。

← 「ぼく・わたしを、見て!」・・・大好き歌や手遊び・・・舞台上で楽しむ姿を 見てもらっています。

自己肯定感（4歳）⇔ 自我の発見で、自分は〇〇が好きなんだ・得意なんだと気が付き、この時期特有の“思うようにいかない”時期を乗り越えた子どもたちは、「わたしって、けっこうスゴイ」と、自分の存在を肯定できるようになる。この自己肯定感が、その後の（小学校以降の）学ぶ力・生きる力の源になると、「学力世界一」といわれたフィンランドの教育庁（日本の文部科学省にあたる）が言っていました。



← 自分の好きなこと・得意なことに チームで 挑戦・・・「ぼく・わたしもスゴイけど、〇〇ちゃんもスゴイ!」

合意の形成（5歳）⇔ 自己肯定感で自信をつけた子どもたちは、少しずつ友だちの気持ちや考えもきくことができるようになり、相手と意見が食い違った時に、どうしたら自分も相手も納得した問題解決になるかという、合意の形成が可能になってくる。



← どんなストーリーで 誰が出てきて どんな服装で どのような舞台道具や音響は?・・・手作りの劇活動。

↓ 続く

以前もお伝えしましたが、このような3・4・5歳の育ちは、0・1・2歳の育ちが土台 となっています。
 そして、キッズフェスティバルで育んだ「**自我の発見**」「**自己肯定感**」「**合意の形成**」は、これも懇談会・「ひとりごと」でお伝えしましたが、「**表現**」とともに、『**社会情動的スキル**』の根幹となっていきます。



キッズフェスティバルで 子どもたちが見せてくれたのは、まさに、「**表現**」・・・

2月6日（土）の懇談会でもお伝えしましたが、文部科学省の「幼稚園教育要領」（国の指針）には、以下のように書いてあります。
 ↓紹介するのは、5つの柱の一つである「**表現**」です。 ちょっとわかりにくい文章なので、私流にキーワードで（それこそ）表現してみました。

【「**表現**」とは・・・】

- (1) 生活の中で・・・ 音 色 形 手触り 動きなど それに 気付く 感じる それを 楽しむ
- (2) 生活の中で・・・ 美しいもの 心を動かす出来事 それに 触れる それで イメージを豊かにする
- (3) 様々な出来事の中 感動したことを伝え合う その楽しさを味わう
- (4) 感じたこと 考えたことなど 表現する 音で 動きで そして 自由にかいたり つくったりなどして
- (5) いろいろな素材に親しむ そして 工夫して遊ぶ
- (6) 音楽 歌ったり 簡単なリズム楽器 楽しむ
- (7) かいたり つくったり 楽しんで 遊びに使う そして 飾る
- (8) 自分のイメージ 表現する 動きで 言葉で 演じることで そして 遊んだりして 楽しさを味わう



【注意してほしいところ・・・】

豊かな感性・・・ 美しいもの 優れたもの 心を動かす出来事など 友達や**大人と共有すること**で ...表現

子どもの表現は素朴な形 大人はその表現を受け入れる 子どもの表現しようとする意欲も受け止める ...そのことで 子どもらしく表現を楽しむことができる

自分から様々な表現を楽しむ 表現する意欲を十分に発揮できる ...そのために 道具や素材 友達の表現に刺激を受ける 表現する**過程を大切に**する

子どもの「**表現**」って、子どもの心の中に浮かんだ **気持ちや 思いや イメージを 誰かに伝える、**ということです。
 そしてその手段は、**言葉、身体の動き、表情・・・あるいは、何か物を作ることで、描くことで、演じることで・・・。**

子どもの「表現」は、無限です。

そう考えると、なにも舞台の上で行う活動だけが「表現」ではない、ということですね！

・・・それはまさに、『社会情動的スキル』の根幹。 何かを伝え合ったり、共同作業をしたり・・・。

そうであるならば、まず私たち大人が、子どもたちの「表現」のための、いいお手本を見せなければいけないな、と思います。

問題は山ほどあるけど、アメリカって国はスゴイ

ニュースで しょっちゅうやっていますが、大統領選挙の予備選挙が始まっています。
個人的には、どちらかというアメリカの好きでないところが多いのですが（失礼！）、
この大統領選挙は、スゴイっていうか、うらやましいっていうか・・・。



クラスの相談

私は、民主党か 共和党かということは、どちらでもいいのです。まして、アメリカの選挙だし。

（しかし、超大国の影響は絶大で、私たち日本も含めて、けっして無関係ではありませんが。）

でも、あのように（TV.で見た限りですが）、たくさんの国民がそれぞれ気持ちを合わせて、自分たちのリーダーを 直接選び取る・・・うらやましいですね。



役ごとの相談

一つ印象に残ったシーンは、20 歳代の女子学生が「たった 2%の人たちが、国全体の富の 98%を独占しているのはおかしい！」と、メディアに訴えていたこと。日本も意外に格差社会と言われていますが、アメリカの場合、その格差は、けた違いなのかもしれません。
ここで最も 印象に残ったのは、若い人たちが自分の考えや意見を、きちんと相手に説明し、賛同を得るための交渉をし、他人任せではなく、自分たちのリーダーを自分たちで決める、ということなのです。

民主主義の歴史と仕組みが違うということなのかもしれませんが、日本の若者たちは・・・??? 選挙権が 18 歳からに拡大されます。

そしてそのための教育のあり方が議論されてはいますが、実際にどれだけ広がり、どれだけ浸透しているのか？

皆さんは、『子どもの権利条約』って、ご存知ですか？ 正式には「**児童の権利に関する条約**」といって、1990 年に発効し、日本は 1994 年に批准しました。これには 4 つの柱があります。**生きる権利・守られる権利・育つ権利・参加する権利** です。

↓ 続く

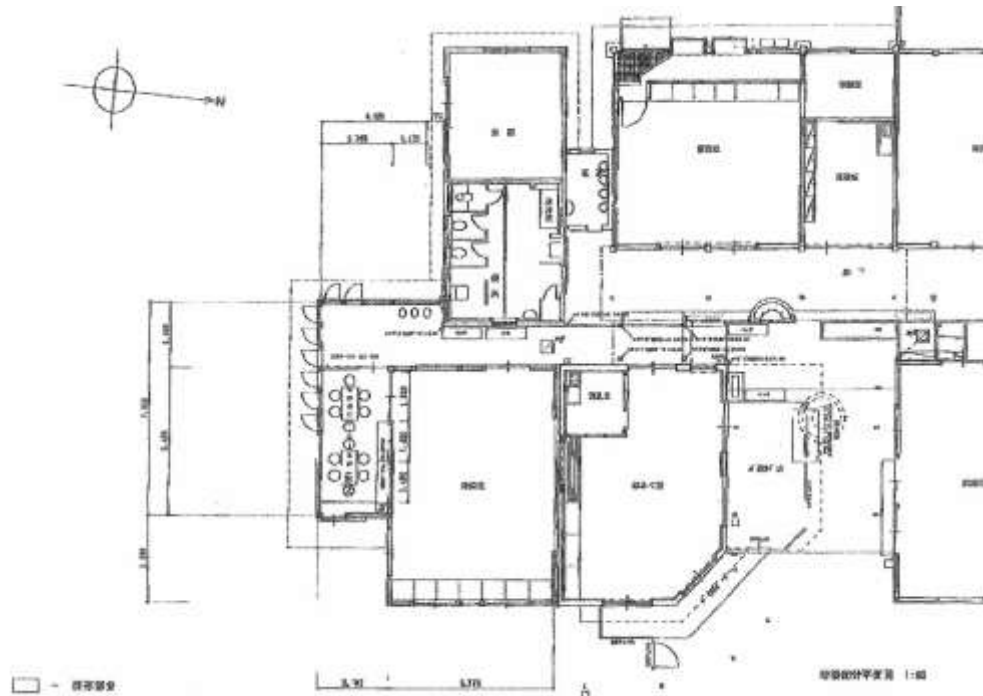
そのうち2つの柱を見ると・・・

育つ権利→ 教育を受ける、休んだり遊んだりする、自分らしく成長する

参加する権利→ 自分に関係のある事柄について自由に意見を表したり、集まってグループを作ったり、活動する

幼児期の教育でも（当然、あかみ幼稚園でも）、21世紀の市民を育てるといふ、哲学・理念が とても重要だと考えます。それは、18歳になって いきなり、選挙権を行使できる 態度や力が湧いてくるわけではないからです。

さて最後の話題は、0・1歳児棟の 改修工事について・・・



3月15日の完成・引き渡しの予定で現在、つくし・はこべ組中心に、工事が行われています。

これは・・・、

- ①はこべ組（1歳）のスペースを南側に広げる。
（現在でも基準の面積はクリアしていますが、
ちょっと ゆったりできるように広げます。）
- ②はこべ組のお子さんが、つくし組（0歳）の部屋を通らずに園庭に出られるようにする。
（今までは、つくし組の中からデッキに出て、
そこから園庭に出ていましたが、これからは
通路から出られるようにします。つくし組が安定。）
- ③その他、つくし組とデッキの段差を少なくする、
れんげ組の天井に明り取りを作る、おもに
0・1歳の保護者のお迎え・待合スペース、
など。

☆今後も所どころで、子どもたちの生活空間改善の改修が必要になるでしょう。その際は、ご理解・ご協力をお願いいたします。